

第1学年 道徳（人権）学習指導案

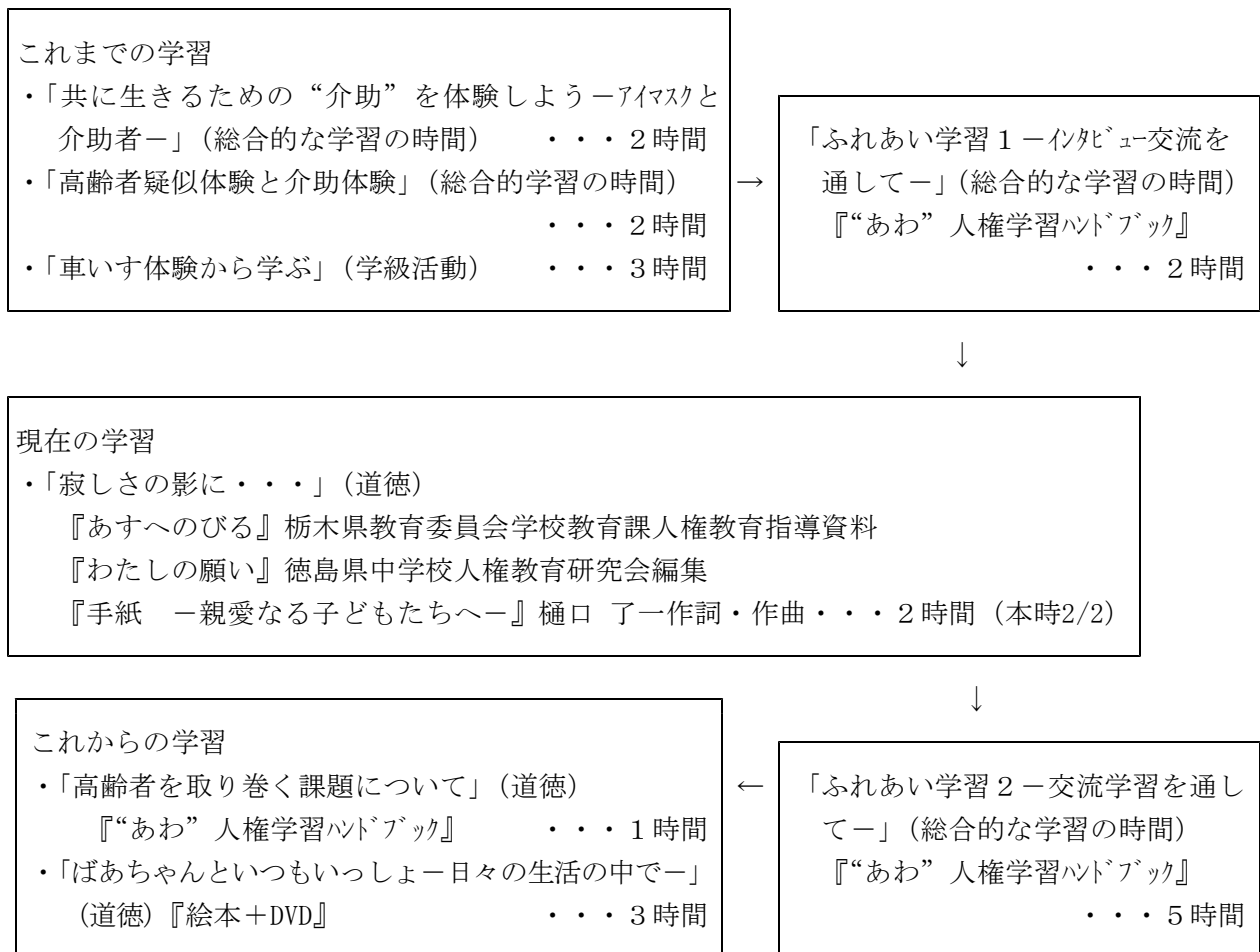
1 主 題 暮らしをみつめて、共に生きる

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

高齢化が進む社会に生きる自分たちも、将来確実に高齢者になることを踏まえ、生きがいを持って安心して生涯を過ごすことができる社会を実現することの大切さに気付き、「共に生きる」という視点で、高齢者とどのように関わっていくべきかを考えて、実践しようとする態度を養う。

4 指導計画



5 本時の学習

(1) 目標

高齢者について、「何もできない」という、マイナスのイメージでとらえることなく、これまで培ってきた豊富な知識や経験を尊重しながら共に生きていこうとする意識を持ち、普段の生活の中においても他者の立場を考えながら、あたたかい心で関わっていく行動につなげることができるようにする。

(2) 普遍的な学習のテーマ 人権の尊重

個人人権課題名 高齢者

(3) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点
1 前時に読んだ資料「寂しさの影に」の内容を確認し、「ばあちゃん」の本当の願いを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」と家族の気持ちの変化と「ばあちゃん」の行動の変化を黒板に整理し、確認させる。 ・「ばあちゃん」の行動から、「ばあちゃん」の願いを「私」がどうとらえたかについて、目に見えない高齢者の思いに寄り添って考えさせる。
2 家族の一員として、体が不自由になってきた「ばあちゃん」に家の仕事をしてもらうことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ばあちゃん」は、何もしないほうがいいのか、あるいはしてもらったほうがいいのかを考えさせ、その理由も話し合わせる。 ・グループで、高齢者の方々との関わり方を話し合わせ、よりよい方法を発表させる。
3 「寂しさの影に」の「私」が、「ばあちゃんが寂しさから解放される」ために何が必要だと考えたかを推論する。	<ul style="list-style-type: none"> ・終末の「 」に入る内容を書かせることで、高齢者の方々と共に生きていくために、私たちはどんな気持ちと行動が必要かを明確にさせる。①
4 『手紙 ー親愛なる子どもたちへー』の曲を聴きながら、本時の学習のふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴かせることで、体が思うように動かなくなってきた高齢者に「何もさせない」のではなく、互いが助け合って生きる方法を、状況の変化の中で考え、判断し、行動することが大切であることに気付かせる。① ・学習過程での自分の変化をふりかえらせる。②

(4) 評価

・高齢者を「何もできない」というマイナスのイメージでとらえることなく、これまで培ってきた豊富な知識や経験を尊重し、感謝と敬意の気持ちで、共に生きていこうとする意識を持つことが大切であることが理解できたか。 (知識的側面) ①

・この学習で学んだことから、学校や家庭生活の中で相手の立場を考えながら、あたたかい心で関わっていきこうとする態度につなげることができたか。 (価値的・態度的側面) ②